介護労働者の厚生と意思決定に影響を与える要因

加藤善昌*

要旨

本稿は日本の介護労働者を対象として、かれらの主観的厚生と意思決定に対してどのような要因が影響を与えるかを実証分析した。主観的厚生として職業生活全体についての満足度を用い、どのくらい現在の仕事を続けたいかという就業継続意向と、現在の職場にどのくらい居たいかという留保意思を分析対象とした。そして、それらを被説明変数として、詳細な満足度計 11 項目をおもな説明変数としたうえで最小二乗法によって回帰分析した。分析の結果、職業に関するすべての要素が職業生活全体の満足度に対して影響し、特に、就業訓練が最も大きな影響を与えることが判明した。一方、就業継続意向と留保意思に対してはより限定的な要素が影響し、特に、職務についてのやりがいが最も大きな影響を与えることが判明した。さらに、労働時間や余暇についての満足度も強く影響することが判明した。したがって、介護産業における労働供給の安定化のためには、就業時間中における OJT と余暇の確保、そして、それらを実現するための事業所の経営状態の改善や労働者間のコミュニケーションの充実化が必要であると考えられる。

キーワード:介護労働者，主観的厚生，意思決定，満足度
JEL コード：I11, I31, J28

* 姫路獨協大学　産業経営学類　准教授 z_kato@gm.himeji-du.ac.jp
本研究において『介護労働実態調査』の 2013 年度版のデータを使用するにあたり、東京大学社会科学研究所データアーカイブセンターSSJDA からデータを提供していただきました。この場を借りて感謝申し上げます。また、本研究は、JSPS 科研費（課題番号 H1702505）の助成を受けたものである。